

## 「役割を果たす」とは

第二期の「役割を果たす」に入りました。北中では「一人一役」ということで、生徒一人一人が役割をもち、それを確実にやり遂げることで集団に貢献しよう取り組んでいます。

「どんな役に付いたかということよりも、どのようによ、またどれくらい貢献したかが大切」だと私は生徒たちに常々言ってきました。リーダーと呼ばれる人たちの役割だけが尊いわけはありません。目立たない役割であっても、貢献度「大」であるべきだと私は思います。

各教室の、翌日の予定が書かれたホワイトボード。私はここに「役割を果たす」ことの意識が表れていると考えています。四月十七日の文章にも、このホワイトボードのことについて触れましたが、今日は二期のテーマに関わって書くこととします。教科係は、その教科の責任者ということによって位置づいています。教科によって、また、担当教師によって、仕事内容に多少の違いはあるかもしれませんが、「次時の予定の確かめ」「ホワイトボードへの予定記入」「特別教室の開錠施錠」「提出物の改修や配付」などが主な仕事内容です。

これらを一通りやりさえすれば、役割を果たしたことになると考えてはいけません。やり方が問題なのです。その一つがホワイトボードに書き込む内容の筆跡です。

遠くからではとても見えないような小さな文字や薄い文字、「面倒くさい！」と言わんばかりの乱雑な文字、誤字脱字が目立つ（指摘する人もいないようで、ずっとそれがさらしものになっていくことがあります）恥ずかしい文字……こういう文字を見ると、「役割を果たす」とは程遠いなあと感じます。

きれいな筆跡を求めているわけではありません。見る人たちのことを考えて、大きめの正確な文字を丁寧に書くべきだと思います。それがその人の役割であって、そこまでできて初めて役割を果たしたと言えるのではなんでしょうか。

四月十七日は「学級の文化」という点から、予定ホワイトボードについて書きました。今日は「役割を果たす」という点から書きました。一つの題材ですが、複数の意味をもつのだとわかっただけで思わなかったでしょう。それらを理解して取り組むことが主体的な働きぶりにもつながっていきます。

学校では給料は出ません。しかし、これが職場だったら、仕事のきばえで見合った給料が支給されます。営業成績、製品や商品の仕上がり具合、顧客満足度、アフターサービスの充実度……一人一役に給料が出されるとしたら、あなたの今の働きでどれくらいもらえるのかな。社会では、戦力外通告（リストラ）もありますからね。甘いこと言っていられませんか。今からしっかり学んでおきましょう。

（五月三十一日記）